

「仙台二高吹奏楽部の発足と初期部活の足跡－覚え書き－」

秋山宏好氏・小野義徳氏との談話、仙台二中二高百年史などから（2015.12.01.）

発足前後の時代背景：

①昭和 21 年 5 月 20 日，復興記念一中二中対抗野球大会第一回戦（復活第 1 回対一高定期戦）。

②昭和 23 年 4 月，新制高等学校の発足。

【第八代・田淵正範校長 ～S24.10.10.】

③昭和 25 年 4 月，創立 50 周年記念式典（校舎の戦災復旧工事完了）。

④昭和 30（1955）年 5 月，創立 55 周年記念式典（北陵会館落成）。県下高総体三連覇から四連覇達成を目指した年にあつて、復活第 10 回対一高定期戦の勝利を目指し、「吹奏楽同好会」が発足。定期戦は一勝二敗で敗れるも、高校総体四連覇が達成された（昭和 29 年入学、昭和 32 年 3 月卒業の高 9 回・今井克彦氏（アルトホルン・指揮）が二年生在学時とのこと）。

⑤後に生徒会総会で「部」への昇格が承認された（昭和 33（1958）年 3 月卒業の高 10 回・秋山宏好氏〈「吹奏楽部の生い立ち」，仙台二高三三会・卒業五十周年記念文集，p50-p51，平成 20 年））。

【第九代・山下 忠校長 ～S31.9.30.】

楽器調達と指導者選任の背景：

①昭和 30 年～昭和 31 年、大先輩の物心両面からのご支援があつて初めて楽器類の調達が成された。その御仁とは、旧制二中 35 回生（昭和 10 年卒）の亀掛川 守氏（胃腸科開業）と大河内 進氏（大一楽器社長の実兄）の両先輩である。亀掛川氏は私財より 100 万円（現在の約 1,000 万円相当か）を、また大河内氏は一番町にあつた地元の楽器店主の兄弟として、楽器の購入・調達に奔走された（筆者の東北大学教育学部附属小・中で同級生であつた女子二名、即ち亀掛川氏の令嬢と大河内氏の甥で後に社長を継がれた鋭一氏（高 3 回生、昭和 26 年卒）の奥様からの伝聞より）。

②初代の顧問である結城幸太郎教諭（数学、昭和 27 年 4 月～昭和 32 年 5 月在籍）にはこの楽器調達と、指導者（運動部にあつてはコーチまたは監督に当たるため、ここでは音楽監督と呼称する）の選任・就任にご尽力を頂いた。しかしながらその経緯については、前出の秋山宏好氏と音楽監督ご本人との記憶に若干の乖離がみられるが、今となつては已むを得ない。

秋山氏は、「初めの方は片平丁の裁判所用務員の長谷氏であつたが、そのご指導は週一回土曜日のみと云うことで部員が満足せず、早急に次の指導者の選任を顧問に依頼した。その結果、大一楽器店顧問であつた小野義徳氏に早い時期に来て頂いた」と語っている。

一方、元帝国海軍・軍楽隊ご出身の小野義徳先生によれば、ご両親が宮城県出身であつたご縁で大阪から仙台へ移住して、南光学園・東北高等学校吹奏楽部を指導することになり、大一楽器店に顧客として出入りした。やがて同店店主から、前述の社長ご子息・鋭一

氏ほか店員の指導に当たるよう懇願されて、同店のアドバイザーも引き受けられた由。

なお、NHK-仙台放送局の管弦楽団指揮者でもあった前出の長谷峰治氏を介して、東北吹奏楽連盟に深く拘わることになり、本邦の吹奏楽連盟の中で東北地方、なakanづく宮城県はレベルアップが求められていた時代であったため、仙台を始め県内の中・高校の指導に当たっておられたとのこと。巡回指導の一環として、とある夏の暑い最中に広瀬川河原で練習中の二高吹奏楽部の練習に初めて立ち会われた由。一方、顧問の結城幸太郎先生と秋山氏が大一楽器店に度々相談に来られたのを受けて、その立ち会いから約一年後、正式に音楽監督をお引き受けになられたと伺った。

【第十代・勝股朝頼校長 S31.10.5.～S36.3.31.】

従って、小野先生の任期については、創部 50 周年記念 OB 演奏会の CD 目次に記載の「昭和 33 年－昭和 48 年」は始期（終期についても後述の通り）に誤謬があろう。結城幸太郎先生の二高在任時期を勘案すれば、昭和 31（1956）年が始期と考えられる。

小野音楽監督：

矢野 清氏（後に旧制天理中学の指導者）の私塾に入門してユーフォニアムを、次いでトロンボーンを通じて管楽器奏法に習熟なされた小野義徳先生には、前述の経緯から、実質的な初代音楽監督として我々をご指導頂くことになった。その間、特筆すべきことは創部 6 年目と云う早い時期の昭和 36（1961）年に、全日本吹奏楽コンクール宮城県大会・A クラスの部に於いて我等が吹奏楽部（部員は高 14 回・15 回・16 回生）を優勝に導かれ、同年秋に青森市で行われた東北大会へ臨むことになったことである。東北大会では、随意曲としてベートーベン作曲「Egmont 序曲」を演奏したが、惜しくも第三位に甘んじる結果であった（[仙台二中二高百年史 p161](#)「第七章昭和中期」；生徒会誌「造型 14 号：吹奏楽部…高校吹奏楽コンクール県優勝・東北三位」）。なお、この時の記念の盾が母校・廊下の陳列棚に飾られている。

【第十一代・小坪 洋校長 S36.4.1.～S43.3.31.】

先生の音楽監督としての終期についてであるが、先生のご記憶によると、現職のまま急逝された【第十二代・小針寿一校長 ～S49.1.20.】の学校葬がしめやかに挙行された年の文化祭（現在の北陵祭）頃とのこと故、昭和 49（1974）年とすることとした。

従って、小野義徳先生には、その在任期間である昭和 31（1956）年～昭和 49（1974）年と、18 年もの長きにわたって二高吹奏楽部の基礎造りにご尽力頂いた。ここに記して、改めて謝意を表すものである。

なお、小野先生には、創部 50 周年記念 OB 演奏会（2005 年 10 月）の 3rd stage 後半において指揮をお執り頂いたが、御年 81 歳とのことであった。先生の在任期間に部員であった OB 達は、しばしば先生を OB 会にお招きして旧交を温めているが、直近では、仙台在住の高 15 回生を世話人として、二吹会正式発足後の 2012（平成 24）年 7 月 15 日に「二吹会“小野先生を囲む有志の集い”」が仙台市内のホテル白萩に於いて挙行された。

以上

【文責：二吹会副会長・尾形正裕（高 14 回）】